

ノーバディズ・パーフェクト・プログラム 事前講習会

兼田 知美¹⁾

はじめに

ノーバディズ・パーフェクト・プログラム（以下、NPプログラムと略記）では、参加者の安心を確保するために、プログラムの内容と同等に託児が重要な意味を持つことになる。NPプログラムに学生が託児者として参加することでの成果は、①プログラムを通して「誰も完璧な人などいない」という対人援助の基本姿勢を学ぶ②日頃に関わることの少ない乳幼児期の子どもたちとのふれあいを通して、発達過程を体感するとともに、乳幼児への興味・関心を高める③対人援助の実践活動についてのノウハウを学ぶということであった。学生が安心して託児を行い、それを成果につなげていくために、第6回、7回共に坂本牧子先生と金子留里先生を講師としてお招きして、事前講習会を行った。

1. 実施概要

【第6回NPプログラム事前講習会】

- (1) 日 時：2012年10月24日（水）9：00～12：00
- (2) 場 所：心理教育相談センター演習室・心理教育相談センタープレイルーム1、2
- (3) 講 師：金子留里・坂本牧子（敬称略）
- (4) 参加者（敬称略）
（託児スタッフ）井上正子・坂本牧子・鶴田実千代・藤田弘香
（学生スタッフ）上丸恵理・上西菜月・河本こよみ・寒澤市乃・永井勇樹・中川絢子・中川聡子・細藤邦子・盆子原亜析・南浦夏海（敬称略）
（運営スタッフ）植田 智・木本明日香

【第7回NPプログラム事前講習会】

- (1) 日 時：2013年10月16日（水）9：00～11：15
- (2) 場 所：心理教育相談センター演習室・心理教育相談センタープレイルーム1、2
- (3) 講 師：金子留里・坂本牧子（敬称略）
- (4) 参加者（敬称略）
（託児スタッフ）井上正子・坂本牧子・藤田弘香・宮本静子
（学生スタッフ）井関祥子・上丸恵理・岡野桃菜・河本こよみ・木下千晶・水津舞弥・埤智子・中川絢子・中谷岳二・松岡智美（敬称略）
（運営スタッフ）植田 智・金子留里・兼田知美

【第6・7回NPプログラム事前講習会内容】

- (1) NPプログラムの説明と流れ、託児室の役割
- (2) 託児業務の確認
- (3) 乳幼児のおもな発達とかわりかた
- (4) ロールプレイ体験「はじめての託児ってどんな気持ち？」
- (5) 託児体験で大切にしたいこと・気をつけること

2. 実施の様子

(1) NPプログラムの説明と流れ、託児室の役割

NPプログラムは、1980年代カナダではじまったプログラムであり、2002年より日本でも実施されはじめた。日本でのNPプログラムはカナダで開発されたものとは少し異なり、母親を支援するプログラムとして認知されている。NPプログラムのねらいは、親たちに安心して出会える場と、

1) 広島文教女子大学人間科学部心理学科助手

自分たちの生活や子ども、親としての役割について考える機会を提供することにある。全8回を通して、基本的に受講者同士が学びたいことや考えたいことを決定していき、その参加者のニーズや関心に添って、ファシリテーターがプログラムを計画し、学習活動やグループでの話し合いを進行する。NPプログラムの流れとしては、1回目は『出会い』として、お互いを知ることを目的としており、NPプログラムの場を安心して過ごすためのルール作りや、2～7回で行いたいテーマと一緒に考えていく。その後、2～7回目は、テーマに沿って話し合っていく、8回目では振り返りを行う。

プログラムを進行していく上で、託児スタッフが子どもにとって安心できる良い関係を作っていくことはとても重要な点であると考えられる。なぜなら、受講者が安心してプログラムに参加できるということはプログラムの可否に影響を与えるからだ。また、子どもたちにとっては新しい出会いを経験する場として、託児室は機能する。受講する母親にとっても子どもにとっても託児室や託児スタッフへの安心感は重要な点であるといえる。

(2) 託児業務の確認および託児会場見学

学生たちは赤ちゃん人形を用い、赤ちゃんの抱き方や接し方を学んだ。赤ちゃんを抱っこをする際や移動させる際に突然抱くのではなく、声かけをし気遣って行動するよう学生たちは指導を受けた。

その後、赤ちゃん人形を抱いたまま託児会場の見学と託児業務の確認へと移った。学生たちは赤ちゃん人形の抱き方や扱いに気をつけながら、託児業務の確認にあたった。赤ちゃん人形を抱きながらの行動はなかなか難しいようで、終了後学生たちからは、「重かった」や「お母さんの大変さを少しだが知ることができた」などの感想があった。

(3) 乳幼児のおもな発達とかかわりかた

講義では、二人一組のグループを作り、子どもの年月齢に合わせた発達を学んだ(図1)。年月齢の年表に、このころの乳幼児はどんなことができ

るようになっているかを考え、それぞれの行動が書かれているカードをグループで話し合ってもらい、その後、解説を交えた答え合わせを行った。学生たちは講義を楽しみながらも実際に乳幼児と関わる機会に向けて、真剣に聞いている様

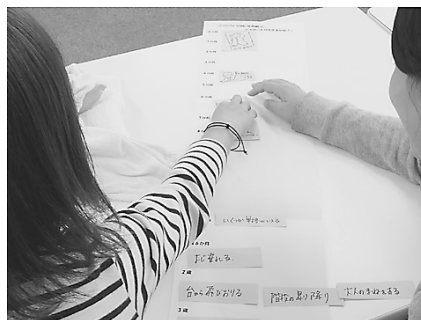


図1 乳幼児のおもな発達とかかわり方

子だった。

(4) ロールプレイ体験「はじめての託児ってどんな気持ち？」

初めての託児で、子どもを託児室に預ける際の『子ども』・『親』・『託児者』がどのような気持ちになるのかを、ロールプレイを通して体験し、それぞれの気持ちを全体でシェアした(表1)。講師からは、泣いている子どもに託児者が慌てるのではなく、泣いている子どもの気持ちを受け止め、子どもの気持ちに寄り添っていくことが大切であ

表1 初めての託児におけるそれぞれの気持ち

子どもの気持ち	親の気持ち	託児者の気持ち
「お母さんといっしょがいい。やだ、いきたくない。」「みたことない！こわい！」「何が起きているかわからない！」「おもちゃがあるし、ちょっと楽しめかも」	「託児さん困ってる、どうしよう！」「泣かないでほしい」「いい子にしているかな？」「自分も泣き出したい」	「子どもに好きになってもらいたいなあ」「何が好きなのかな」「体調は大丈夫かな」

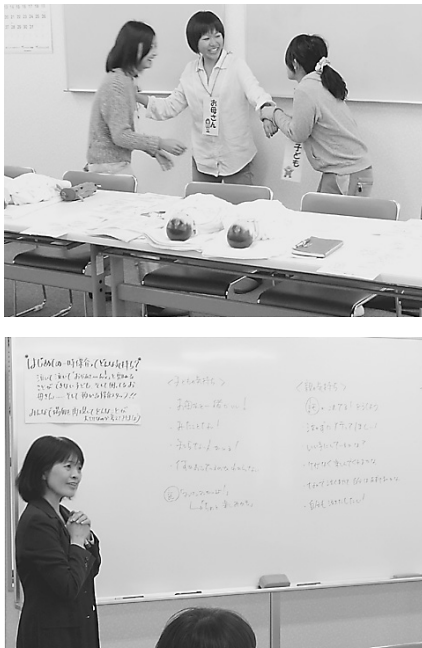


図2 ロールプレイ体験での様子

おわりに

NPプログラム事前講習会では、託児の知識や心構え、託児の流れを知識的に学んでもらい、赤ちゃん人形を用いて子どもへの接し方を体験的に学んでもらった。また、ロールプレイ体験は学生たちにとって、母親や子どもの視点に立って考えるという視点を養う機会になったようだ。NPプログラム事前講習会の参加学生たちの中には赤ちゃんを抱っこしたことがなく、託児経験がない学生も多く、子どもに泣かれたらどうしようと不安に思う学生も多かった。講師の方々には上記のような講習会を展開して頂き、学生たちの感想から託児への不安を軽減するとともに、子どもを預かるという責任感を持つことができたようだった。

このように、託児における責任や心構えを理解した上で、NPプログラムに臨むことができたのには、体験しながら学ぶことのできる事前講習会を行っていただいたことも大きく関係していると思われる。このことから、事前講習会は、不安の軽減だけではなく、成果につなげていく上でも非常に重要であると考えられる。

るというアドバイスがあった。

(5) 託児体験で大切にしたいこと・気をつけること

参加者が安心して講座に参加できるように、託児者は『安心』・『安全』・『責任』の3つの柱そして、笑顔とあいさつが大切である。参加者や子どもの気持ちに寄り添い、託児者もファシリテーターも力を合わせて協力していくことでよりよいプログラムを作り上げることができる。託児者は子ども達の遊びや様子に子どもたちの感じる“楽しい”のヒントが隠れているので、そのヒントを見逃さないように心がける必要がある。また、子どもたちは元気いっぱいである分危険も多いので、子どもたちが安心、安全に過ごせる環境を託児者は作っていく責任がある。